

ふるさと奥尻通信

令和6年12月27日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

冬場のソイ類は背中に厚みがあり、さばくと白っぽい脂身があります。まな板や包丁も脂っ気で光ります。見るからに美味しそうな白身です。刺身もいいけど煮付けも絶品ですよ。

特集 幻の魚ハチガラ

島の岩礁地帯に住み着いている魚として有名なのが、地元で「ハチガラ」と呼ばれている魚です。この魚は、沿岸部でもとても陸に近い、簡単に歩いて渡っていけるような岩場に数多く生息しており、漁港のテトラポット内にも居着いています。そのため、島内では簡単に釣れる魚の代名詞となっています。

一方、島外では少々事情が違うようです。個体数が少なく簡単には釣れない上に、漁師の網にも多くはかからないため、市場には多くは出回らない「幻の魚」とも言われているようです。生息域は、日本海側は道南地方から九州北部、太平洋側は道南地方から千葉県にかけてと言われています。

このハチガラ、和名としては「ムラソイ」と呼ばれ、地元では黒っぽい地味な色をした個体の他、黄色がまぶしい「オウゴンムラソイ」と朱色が鮮やかな「オレンジムラソイ(アカブチムラソイ)」などの種類があると言われていました。しかし、近年のDNA研究では「ムラソイ」と「ホシナシムラソイ」が同一種の「ムラソイ」で、「オウゴンムラソイ」と「オレンジムラソイ(アカブチムラソイ)」が同一種の「オウゴンムラソイ」と判明しました。



「ムラソイ」34cm



屋間の港では釣れない...

この魚が釣り人に好まれる理由としては、①刺身でも、煮付けでも味が美味しい②磯釣りの時に魚のアタリが大きく、釣り上げるまでのファイトが楽しい③なかなか出ない大きな個体や鮮やかな色合いの個体に出会った時の興奮などが挙げられます。

「ハチガラ」は胎生魚に分類され、子が雌の体内で孵化したのちに体外に放出されてしばらく浮遊し、稚魚に成長してからは、ごく浅い岩礁域に生息します。産卵期は5月～6月頃で、オレンジ色の卵を抱卵した丸々とした雌の個体がみられます。エサ釣りではほとんど産卵後の個体しか釣れませんが、まれに抱卵した時期の雌がかかる事もあります。こういう時はリリースしてあげたいものです。特に魚のサイズに関しては、とても成長の遅い魚であり、2年で15cmくらいまでに成長してからは、年に1cm程度しか大きくなるとされます(例:35cmだと22歳)。30cmを超える個体が釣れるのはまれで、人の入らない西海岸に行かないとお目にかかれません。東海岸では25cm前後がせいぜいです。

ところで、島に生息する魚には春期に産卵する種類と、冬期に産卵する種類に大きく分かります。今回のハチガラやソイ類は春期に産卵するために積極的に岸寄りしてきます。一方で、ホッケやアブラコなどは冬期に産卵しますので、冬期に岸へ寄ってきます。11月～12月は越冬期ですので、魚たちも栄養を蓄えるために捕食が多くなり、動きが活発になります。そのため、産み付けられた卵を別の魚が食べてしまうことがしょっちゅうあります。魚たちの生存競争が垣間見え、自然界の厳しさを感じさせます。稚魚になってからも捕食される可能性は低くない訳ですから、食物連鎖のピラミッドは歴然としているのです。資源を消費する際には、このことを思い出したいものです。



「オレンジムラソイ」(アカブチムラソイ)31cm
「オウゴンムラソイ」と同一種



「オレンジムラソイ」(アカブチムラソイ)
「オウゴンムラソイ」と同一種



アブラコの胃袋に入っていた魚卵



このような岩場にたくさんいます

